

# BILANC

ビランク

公益財団法人 私立大学退職金財団  
広報誌 通巻95号  
2019年3月26日発行

vol.18

- 第19回理事会報告
- 平成31年度収支予算

特集  
その〴〵思い込み〴〵正しいですか？  
「価値観」総点検

- 「なぜ？」を鍛えて  
混迷の時代を生き抜く
- 幸せな人は知っている  
最善主義という処方箋
- 「決めつけ」再検証  
3つの極意

Topic	<b>退職資金が掛金を81億円上回る予算を承認</b> .....	3
特集	その“思い込み”正しいですか？ <b>「価値観」総点検</b>	
	▶ 「なぜ？」を鍛えて混迷の時代を生き抜く.....	4
	●柴田裕之（翻訳家）	
	▶ 幸せな人は知っている最善主義という処方箋.....	6
	●成瀬まゆみ（セミナー講師・翻訳家・コーチ）	
	▶ 「決めつけ」再検証3つの極意.....	8
	●江守正多（国立環境研究所地球環境研究センター 副センター長）	
Focus	<b>2019（平成31）年度 事業計画・収支予算</b> .....	10
Special	私立大学等の今を聞く <b>M字カーブ解消の後押し！ 人生100年時代の新しいリカレント教育</b> .....	12
	●坂本清恵（日本女子大学生涯学習センター所長・文学部教授） ●松梨久仁子（日本女子大学リカレント教育課程主任・家政学部准教授）	
新連載	<b>産学連携最前線 [第1回]</b> <b>明治大学／トマトラーめん、就勝手帳</b>	
	●木谷光宏（明治大学教授）.....	15
連載	<b>未来を拓く学校人 [第5回]</b> <b>「ボランティア」を授業、サークル、 バイトに並ぶ“学生の日常”に！</b> .....	16
	●聖学院大学 ボランティア活動支援センター	
	<b>維持会員通信</b> .....	19
	▶ 学びを深化するクロスオーバー型教育／愛知学院 ▶ 現役院生がバイオベンチャー起業／君が淵学園 ▶ 国分寺市と協定し町の魅力を発信／東京経済大学 ▶ 新キャンパスは自然・地域・交流の接点／常葉大学 ▶ 俳句で子どもが言葉の楽しさを体験／佛教教育学園 ▶ 全国唯一の短大「運輸科」／豊昭学園	
連載	<b>トレンド武装講座 [第2回]</b> <b>デキる学校のSNS &amp; Webサイト新戦術</b>	
	●落合正和（Webメディア評論家）.....	22

BILANC(ピラंक)とは、“つり合い”“均衡”を意味する「バランス」の語源となったラテン語で、当財団と維持会員が、バランスを保ちながら、ともに歩んでいきたいという思いを込めています。



## 退職資金が掛金を81億円上回る予算を承認

### 第11次掛金率の適用が始まります

平成31年度事業計画・収支予算を主題に、2019(平成31)年2月22日に第19回理事会を、3月6日に第16回評議員会を、いずれもアルカディア市ヶ谷(私学会館)にて開催しました。

理事会では、平成31年度事業計画書、収支予算書が承認され、その他の決議事項についても提案どおり決定されました。また、定款の定めにより、事業計画等を評議員会に報告いたしました。

平成31年度は、第11次掛金率が4月分掛金の算出から適用される初年度として準備資産(掛金蓄積分)を81億円取り崩します。

7月には初任者を対象とした業務説明会を開催するなど、安全かつ確実な運営に関する広報活動をさらに充実してまいります。

また、ほとんどの維持会員にご利用いただいている退職資金申請システムについては、2014(平成26)年11月の稼働から5年が経過したため、システム基盤ハードウェア及びソフトウェアを更新します。このほか、災害等を想定した退職資金の送金訓練を実施し、若干の課題を整理するとともに、対応策を講じたことなどを理事会に報告しました。 →事業計画・収支予算はP.10～P.11参照

#### 【決議事項】

1. 平成31年度事業計画書の承認について
2. 平成31年度収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みの承認について
3. 教職員登録情報の訂正について
4. 給与規程の一部改正について
5. 就業規則の一部改正について
6. 評議員会の日程及び場所並びに議事に付すべき事項の決定について

#### 【報告事項】

1. 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告について
2. 維持会員の状況について

#### 【報告事項】

1. 平成31年度事業計画書について
2. 平成31年度収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みについて
3. 教職員登録情報の訂正について
4. 給与規程の一部改正について
5. 就業規則の一部改正について
6. 維持会員の状況について

その「思い込み」正しいですか？

# 「価値観」総点検

自分の「主観」は変わるのか？ 他人との隔たりは埋まるのか？  
どんな人生観だと生きやすいのか？ 3人の識者に話を聞きました。

※本特集はインタビューのご見解に基づき作成しております

## 「なぜ？」を鍛えて 混迷の時代を生き抜く

翻訳家 柴田裕之



(しばた・やすし) 早稲田大学、米国 Earlham College 卒業。主にノンフィクションの翻訳を手がけ、2016年『サピエンス全史』、18年『ホモ・デウス』(ともにユヴァル・ノア・ハラリ著、河出書房新社)がベストセラーに。そのほかの訳書に『叛逆としての科学』(フリーマン・ダイソン著、みすず書房)、『神々の沈黙』(ジュリアン・ジェインズ著、紀伊國屋書店)などがある。

### 今こそ、既成概念の意義を問い直すべき

私が翻訳したイスラエルの歴史学者、ユヴァル・ノア・ハラリ博士の『サピエンス全史』と『ホモ・デウス』は、おかげさまで、日本でも大きな反響を呼びました。ハラリ博士は2つの著書を通じて、言語を獲得した人類が、宗教や思想、法治国家といった“巨大な虚構”をつくり出したこと、そうした虚構が文明を発達させて世界中に広め、人類に富と繁栄をもたらしたことを解き明かしました。

しかし、高度な文明がビッグデータやAI(人工知能)をも生み出

し、AIによる人類の支配という新たな危機を招いたことも、ハラリ博士は警告しています。私は、海外のさまざまな著作の翻訳を手がけてきましたが、とりわけ、既成概念を覆してしまうハラリ博士の斬新な考え方には目をみはりました。そしてハラリ博士の着想の源が、ある出来事に対して「なぜ」と問う力——いわば「疑う力」にあるのではないかと考えるようになったのです。

ハラリ博士が疑う力を培ったのは、彼自身の生い立ちが多分に影響しているのでしょう。ハラリ博士はユダヤ人として、イスラエルの国民として、幼少のときから宗

教や国家の激しい対立を目の当たりにしてきました。そして、どのような人生観や価値観を選ぶべきかを迫られ、思い悩んだ末に、宗教や国家にも鋭い疑いの目を向けるようになったのでしょう(図表①参照)。

さらに、イスラエルを飛び出し英国に留学したことで、いよいよ開眼したのではないかと推察します。世界に多様な価値観が存在することを知ったハラリ博士は疑う力、すなわち、既成概念にとらわれずに物事を見きわめる力を身につけたのではないのでしょうか。

### 翻訳者も科学者も「疑うこと」が出发点

実は翻訳という仕事にも、疑う力が求められます。ある言語の意味を異なる言語で正確に表現するのは、想像以上に難しいことです。だから自分の解釈や表現が適切かどうかは、いつもしつこいほど疑ってかかることになります。それに原著者も人間なので、たまに勘違いすることもあります。私自身、原著を訳そうとしてみても意味が通らず、思い切って著者に

問い合わせしてみたところ、誤りが判明したことがありました。また、ネット上の情報はもとより、活字になっている資料も、鵜呑みにしないよう心がけています。

ハラリ博士の著書を翻訳しているときも、私は頻りに質問しました。それで翻訳が終わったとき、ハラリ博士にお礼を申し上げたところ、こんなお返事をいただきました。

「翻訳者は科学者に似ています。科学者が、もし何も疑問を投げかけず、自分がよく理解していると確信していたら、それはろくな科学者ではありません。翻訳者も同じです。あなたから、質問をしてもらってよかった」

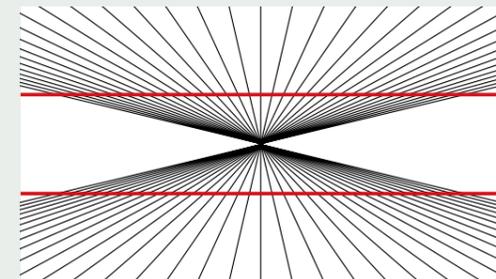
ハラリ博士の疑う力の真骨頂を、私は垣間見た気がしました。例えば一部の宗教は、教義を“正しいこと”としてむやみに信じ、その神性、万能性を魅力的にすることを重視するあまり、変化することができません。対して科学は、仮説を立てたのち実験などで検証し、誤っていれば否定することで、真実に近づいていきます。人類は科学を根拠としたからこそ、現代の高度な文明を発達させたというのが、ハラリ博士の主張なのです。

### ときには偏見が必要なこともある

とはいえ、科学的に明らかにされた真実が、必ずしも“正しい”とは限りません。真実を突き付けられたからといって、その人が考えをすんなり改めるとも言い切れませんし、嘘も方便ということわざもあります。

皆さんは、同じ長さの2本の線

図表② 錯視の例



2本の平行線の中央部がふくらんで見える(ヘリング錯視)。「本当はまっすぐである」とわかっていても歪んで見えるのは、錯視が人を惑わすものではなく、生存に必要な認知機能であるためか？

が違う長さに見えたり、直線が曲がって見えたりすることがある錯視という現象をご存じでしょう(図表②参照)。錯視のおもしろいところは、「これは錯覚なんだ」と自分でわかっていても、やはり違って見えてしまう点にあります。錯視が、もしも人類の生存に欠かせない認知機能だったとしたら、「曇りのある目で見ること、時と場合によっては必要なことだ」と示唆しているのではないのでしょうか。そうすると、人間が持つたくさんのバイアス(偏見)にも、何らかの存在価値があるのかもしれない。

私たちは今、自ら招いた環境破壊やDNAの改変、核兵器の拡散といった脅威に直面しています。科学技術は人間が制御しきれないほど発達し、社会もあまりにも複雑になりすぎてしまいました。膨張する情報の海で、私たちはどのように振る舞えばよいのかわからず、漂っているのが現状でしょう。人は本来考える生き物ですが、すぐに答えをほしがるといふ思考停止の流れはなかなか変わらないでしょう。

そうしたカオスから抜け出すには、すべての物事に対して、「これは正しい」「間違っている」などと、すぐに決めつけることなく、立ち止まって考えることが肝心だと

私は考えます。今の“ストーリー”を疑うのです。そのためには、目で受ける情報を一度断つのも手です。テレビなどの視覚的な情報は、思考を停止させるほどの影響力をもちます。

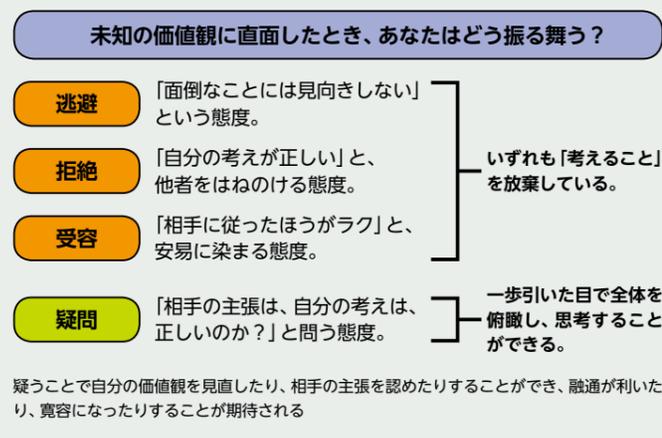
むしろ物事をありのままに許容し、「なぜ存在しているのか」と意味を問い続けることもまた必要でしょう。こうした力を培うためには、歴史を学ぶことをおすすめします。歴史の流れを理解することで、狭い視野から脱却できることもあるからです。

一方で、希望もあります。人々が国境を越えて行き交うようになり、インターネットでグローバルなコミュニケーションが取れるようになったおかげで、私たちは、さまざまな異なる価値観にも簡単に触れられるようになりました。今の子どもたちは、人種や文化などの異なる価値観に対して、逃避や拒絶もせず、寛容になったともいわれています。寛容になることは、歩み寄りを生むことでアウフヘーベンとなるのです。ハラリ博士も、人類の現状に警鐘を鳴らしてはいますが、人類の将来を決して悲観してはいません。新しい価値観を柔軟に受け入れられる若者たちの“疑う力”に、未来を託そうと考えているのではないのでしょうか。

情報があふれる時代だからこそ、すぐに答えを求めず熟考するべき

厳しい疑いの目は「自分自身」にも向けていきたい

図表① 異なる価値観に対する態度



その「思い込み」正しいですか？

# 「価値観」総点検

## 幸せな人は知っている 最善主義という処方箋

セミナー講師・翻訳家・コーチ 成瀬まゆみ



(なるせまゆみ) 2011年、ポジティブ心理学に関する「ハーバードの人生を変える授業」(原著タル・ベン・シャハー)の翻訳を企画し、大和書房より出版、ベストセラーとなる。以来、ポジティブ心理学をテーマとした講演・セミナー・研修を多数行う。監訳書・訳書に「ポジティブ心理学が1冊でわかる本」(国書刊行会)、「ザ・ミッション」(ダイヤモンド社)などがある。

### 職場で価値観の違いを感じたら

「あの人は価値観が合わないんだよね」と、職場でため息をつくことは誰にでもあると思います。しかし、その場合の「価値観」とはいったい何なのでしょう？ 価値観とは本来、「自分が人生のなかで大切にしている優先順位」のことです。職場で話題にあがる「価値観」というと、「仕事に対する考え方や取り組み方」ということになるでしょう。

「仕事では完璧なまでに質のよさを追求したい」「職場での和を何よりも大切にしたい」「仕事にはそんな大きな意味をもたせずに、プ

ライベートの時間を大切にしたい」など、仕事に対する取り組み方を聞けば、いろいろな答えがあがってくると思います。

確かに、仕事の質を追求する人と、とにかく職場で波風を立てたくないという人が一緒に仕事をすれば、「価値観が合わない……」と、お互いが嘆くのも当たり前のように思えてきます。

人は、とにかく自分のことを理解してほしい生き物です。そして、自分が大切に思っていることを、大切にしてほしい生き物です。それは、あなたがそう思っているのと同じぐらい、他の人もそう思っているということです。そんな人たちが集まっている職場で、みんなが

理想を掲げるだけでなく、現実も受け入れられる最善主義者

幸せに生産的に仕事をしていくにはどうしたらいいのでしょうか？

そのためには、まず、仕事における自分の価値観を知ることです。自分は、仕事において何を大切にしていきたいと思っているのかを明確にしていくことが必要ですし、それを周りの人に伝えることが大事です。

そして、これと同じぐらい大事なことは、周りの人が大切にしたいと思っていることを理解することです。自分や相手を知ることなしに、真の相互理解は生まれません。この相互理解に関して、知っておいていただきたい言葉があります。それは、「完璧主義」と「最善主義」です。ハーバード大学で人気ナンバーワンとなったポジティブ心理学の授業をおこなったタル・ベン・シャハー(「ハーバードの人生を変える授業」の原作者)が提唱した概念です。

### 完璧主義から最善主義への移行

「完璧主義」とは文字どおりの意味で、「最善主義」とは、「完璧主義からその神経質なネガティブな要素を取り除いた、より健全な私たちの完璧主義だ」と、タル・ベン・シャハーは定義しています。「最善」とは、「ある一定の条件下で、

最も望ましい」という意味で使われています。「完璧」はありません。「最善」があるということです。これを、職場での価値観の違いという点で考えてみましょう。

例えば「完璧」は、自分の意見が100%採用され、周りが自分の思いどおり、といったイメージでしょうか？ そんなことは現実ではありません。一方で「最善」とは、「いろんな意見や価値観があり、紆余曲折はあるものの、なんとかみんなで折り合える点を見つけることができた。そして、そのプロセスを通して職場のメンバーのよさが出て、絆が深まった」といったイメージでしょうか。

完璧主義者の期待と、最善主義者の予測を図表①に表してありますので、参考にしてください。

それでは、完璧主義者から最善主義者になるためにはどうしたらいいのでしょうか？ まずは、自分が完璧主義でいることで手にしているメリットと、デメリットを洗い出すことです。自分が完璧主義だと気づいていたとしても、人はなかなか完璧主義から抜け出せません。なぜなら、自分が完璧主義であることにメリットを感じているからです。

「理想を高く掲げるのはいいことだ。それによって仕事の質が高くなる」と思うことは、1つの立派な価値観です。それによって、実際に質の高い成果が生み出されていることでしょう。しかし完璧主義でいることのデメリットにはどんなものがあるのか、ここで少し時間をとって考えてみましょう。

①仲間のミスが許せない。②自分のミスも許せない。③成功の基準が高く、いつまでたっても成功

図表② 完璧主義者と最善主義者の違い

完璧主義者	最善主義者
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 失敗を拒否する</li> <li>● つらい感情を拒否する</li> <li>● 成功を拒否する</li> <li>● 現実を拒否する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 失敗を受け入れる</li> <li>● つらい感情を受け入れる</li> <li>● 成功を受け入れる</li> <li>● 現実を受け入れる</li> </ul>
<p>現実を拒否していると、永久に幸せにはなれない</p>	

引用:「ハーバードの人生を変える授業」タル・ベン・シャハー著、成瀬まゆみ訳、大和書房(p55)

だと認められない。④早急に結果を求めすぎる。⑤プロセスを楽しめない。

もしそういったことに心当たりがあるのなら、ご自身の完璧主義のデメリットを手放し、よい意味での完璧主義、つまり最善主義に移行していく時期なのかもしれません。社会で成功されている人は、誰でも少しは完璧主義の傾向を持っていることが多いものです。しかし、より幸せに生きるには、最善主義的な生き方を取り入れていくことが大切です。完璧主義と最善主義は、決して対立したものではありません。完璧主義の高い理想を捨てるのではなく、全体的な状況をかながみて、そのときに最善な判断をしていくことが必要だということなのです。

### 職場での「共同創造」のために

もしご自身が完璧主義に息苦しさを感じたら、その完璧主義的傾向について自己否定するのではなく、自分にはその傾向があると認めることがまずは第一歩です。私も以前は、完璧主義的傾向が今よりも強くみられました。もちろん、仕事で行う翻訳の質を高めるには、完璧主義的傾向を持つことがある

意味で誇りとなるのですが、人生全体で考えるとき、完璧主義はマイナスにはたります。自分ももっとできるはずだとか、なぜこうではないのか、といった思いは、自分を苦しめます。焦りや自己否定感、他者に対するイライラがついてまわるからです。しかし最善主義の考え方を知ったあとは、理想を掲げるだけでなく、現実を受け入れる大切さもわかり、より人生を楽しめるようになってきました。完璧主義者と最善主義者の違いは図表②を参考にしてください。

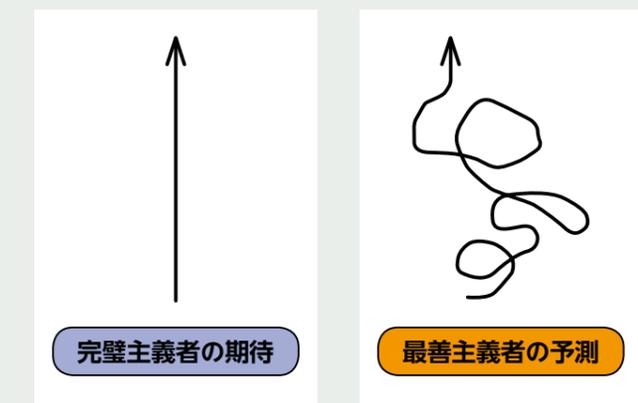
職場では、いろんな価値観を持った人たちが働いています。そういった有機的な結びつきのなかで、自分と他者、両方の価値観を認め合いながら、いい仕事をしていくには、どうすればいいでしょうか。そういった問いを立てることが、最善主義的であるということです。

そしてそれはもちろん100%実現できるものではないですし、時にはフラストレーションを感じることもあるでしょう。しかし、その方向に向かっていくプロセス自体に価値あるということなのです。

完璧な人も、完璧な最善主義者もいません。誰もがそれぞれの学びの道を歩いているといえるのではないのでしょうか。

結果ばかりを追わずに、プロセス自体を楽しもう

図表① 完璧主義者の期待と最善主義者の予測



完璧主義者は、ゴールに至る最短経路をはばむものはすべて障害物であるとみなす。しかし最善主義者は寄り道を容認し、「人は失敗するものだ」「失敗の果てに成功がある」と考えるため、ストレスが小さくなる。

引用:「最善主義が道を拓く」タル・ベン・シャハー著、田村源二訳、幸福の科学出版(P.33)

その「思い込み」正しいですか？

# 「価値観」総点検

## 「決めつけ」再検証 3つの極意

国立環境研究所地球環境研究センター 副センター長 江守正多



(えもり・せいた) 専門は地球温暖化の将来予測とリスク論。1997年より国立環境研究所に勤務し、海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センターグループリーダーなどを歴任。気候変動に関する政府間パネル第5次評価報告書主執筆者。著書「地球温暖化の予測は「正しい」か？」(化学同人)、監修書「地球温暖化のしくみ」(ナツメ社)などがある。

### 科学的に否定された地球温暖化懐疑論

人の判断基準は、イデオロギーや信条、利害関係といったさまざまなバイアスによって変化します。合理的思考に依拠するはずの科学の世界でも、それは同じです。バイアスにとらわれずに物事の真偽を見きわめ、納得のいく判断を下すために、私たちはどのように行動すればいいのでしょうか。私の研究領域である「地球温暖化問題」を題材に考えてみましょう。

石油や石炭といった化石燃料を大量に使うと、大気中のCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)が増え、赤外線が宇宙に放出されにくくなります。それが地球温暖化の主な原因。地球の平均気温は産業革命以降、約1°C上がっていて、このまま温暖化が進むと、21世紀中にさらに4°C上が

るとみられています。すると、極地の氷が減って海面が上昇、大気中の水蒸気も増えるので、台風が増加し、洪水や高潮などの水害が頻発すると考えられています。

一方で、乾燥地帯の干ばつも多発すると予想されています。自然災害が増えれば、生態系が破壊されるだけでなく、水資源や農業といった社会インフラにも打撃を与え、貧困や飢餓を生むなど経済にも深刻な悪影響を及ぼします。それが政治的な争いも招き、世界各地で紛争や難民を増やすかもしれないと懸念されています。

そこで1990年以降、国際社会には「地球温暖化を防ぐ」というコンセンサスがで、2016年には、今世紀中の地球の平均気温上昇を2°C未満に抑えるという目標を定めた「パリ協定」が発効しました。ところが、「平均気温が上がったと

### 事実、環境問題は「科学的根拠」より「政治都合」に左右される

する統計自体が間違っている」「氷河期に向かっているのでは、温暖化は一時的にすぎない」といった「温暖化懐疑論」も根強く残っています。長年の研究によって、懐疑論は科学的にはことごとく否定されています。しかし、それでも懐疑論が消えないのは、さまざまな社会的、文化的、政治的な背景が横たわっているからです。

### 先入観に踊らされない情報の見きわめ方

例えば米国では、保守とリベラルの対立した思想があり、保守である共和党には懐疑論者が多いことで知られています。共和党は、エネルギー産業が主な支持基盤であるうえ、「温暖化対策の規制が自由な経済活動を妨げる」と主張しています。さらに「神が創造した環境を人間が変えられるわけではない」と考えるキリスト教原理主義者にも支持されています。トランプ大統領が、地球温暖化に疑問を投げかけてパリ協定離脱を表明し、物議をかましたことは、皆さんもご存じでしょう。

日本では、環境保護に関心の高い「原発反対派」が、なぜか懐疑論を支持するケースが少なくありません。「原発推進派が温暖化を政治利用している」という理由

からです。確かに、原発には核廃棄物処理といった別の問題があり、環境への負荷が少ないとは必ずしもいえません。原発に反対する方がいるのはわかりますが、それに都合がいいからといって、温暖化懐疑論に飛びつく人が出てくるのは残念です。

このように、社会にはバイアスのかかった情報が満ちあふれています。納得のいく判断を下すには、まず正しい情報・知識を身につけることが欠かせません。そのため私は、次の3つのことをすすめています。

1つ目は情報の裏を取る。つまり情報の出所を調べて、信憑性を確かめるということです。地球温暖化懐疑論では、米国のエネルギー産業の温暖化を否定するデータが流布したケースがよくありました。論文であれば、引用文献が明記されているので、原典にたどり着けます。難易度は高いのですが、インターネットを活用すると探しやすいでしょう。

2つ目は論理の整合性を確かめること。都合のいいデータだけをピックアップ(チェリー・ピッキング)していると、全体の議論のなかで、論理的な矛盾が生じてしまうことがあります。日本でも有名な懐疑論者が、以前はまったく違う主張をしていたことがありました。

3つ目は恣意性がないかどうかを確かめること。理路整然と客観的な議論を展開しているように見えても、データを都合よく組み立てたロジックで、自分の意見を巧妙に主張する人もいます。見抜くのは難しいのですが、反対論と照らし合わせると恣意性が浮かび上がります。また、自分の意見だけ

図表② 異なる価値観の相乗り



価値観が対立する者どうしでも、意見が一致する部分を見つければ、歩み寄ることは可能だ。極端な持論を展開せず「相乗り」を目指すことが、他者理解の第一歩となる

でなく、反対論も踏まえて議論する人のほうが信用できるでしょう。

### 対立する価値観は「多様性」として受容

とはいえ、正しい情報・知識を得たとしても、ほかの人にそれをわかってもらい、価値判断を変えるにはどうしたらいいのでしょうか。価値観が多様化しているなか、相手を説得するのは容易ではありません。それよりもお互いの価値観をある程度容認して、妥協点を探ったり、歩み寄ったりするほうが建設的でしょう。私も、懐疑論者と積極的に対話するように心がけています。頑なに考えを曲げない人も多いのですが、なかには温暖化対策に理解を示す人もいます。

さまざまな価値観が相乗りできる解を提案するのも手でしょう。懐疑論が起こる要因のひとつは、温暖化対策に対するネガティブなイメージです。例えばCO<sub>2</sub>排出を実質ゼロにするため、化石燃料が使えなくなれば、「豊かな生活が送れなくなる」「経済が停滞する」と考えている人は多いのです。

しかし、温暖化対策はマイナス

### 対立意見に「共通点」を見つけてるのが歩み寄りのコツ

面ばかりではありません。省エネルギーや再生可能エネルギーの開発といった技術の革新、新しい産業の振興にもつながります。温暖化対策での経済成長が価値観の相乗りにより実現できるのです。

実は、私は以前、温暖化対策を巡る価値観の対立は解消されないと悲観していました。しかしパリ協定締結に前後して、野心的な目標を掲げる自治体や企業の増加、イノベーションの展望などが見えたことで、「対立が解消されるかもしれない」という希望を見いだしました。

とはいえ、希望をもつだけでは歩み寄りできません。そう思っていたときに聞いたのが、スウェーデンの16歳の環境保護活動家グレタ・トゥーンベリさんのスピーチです。彼女の「希望よりも行動が大事だ。行動することによってのみ希望が生まれる」という言葉によって、行動の大切さを再認識しました。

問題解決に向け行動し、努力することは、価値観を転換させる可能性を秘めています。人類には、さまざまな価値観を乗り越えて新しい高次の価値観をつくりあげ、それを共有できる英知があると、私は信じています。

## 2019(平成31)年度 事業計画・収支予算

事業計画、収支予算の中から主要な項目をご紹介します。  
 2019年度は第11次掛金率(1000分の120.2)を適用する最初の年度です。  
 準備資産を退職資金の1年分相当に近づけるため、  
 平成31年度事業計画でも掛金が退職資金を下回るよう設定していますが、  
 将来を見据えた制度の安定化に重点を置いて事業を行います。

### 事業計画の概要

#### ■ 準備資産(掛金蓄積額)を81億円取崩す収支計画

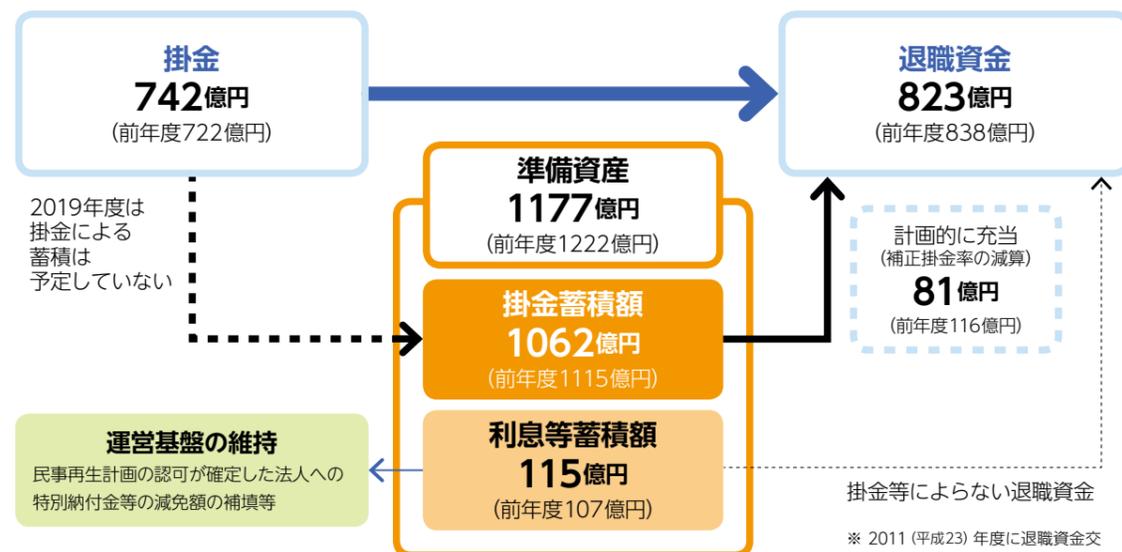
平成31年度事業計画では、いわゆる団塊の世代にあたる教員の定年退職数がピークを過ぎたことから、退職教職員数は、平成30年度事業計画の9908人より約120人少ない9790人を見込みました。維持会員数は598法人、登録教職員数は前年度とほぼ同数の13万6776人となりました。

維持会員に交付する退職資金は、823億円(1人当たり840万6537円)を見込んでいます。この交付に充てる掛金は742億円(1人当たりの俸給月額41万4948円)とし、不足する81億円は退職資金交付準備特定資産(掛金蓄積分)から充当する計画です。

この結果、掛金蓄積分と利息等蓄積分を合計した年度末の準備資産は1177億円を見込みました。退職資金交付金823億円に対する準備資産の保有割合は1.43(年分)となり、2017(平成29)年度決算の1.68より1年分に近づくこととなります。

また、新任担当者向けの説明会を開催し、「BILANC」等の広報誌を発行するなど、財団の制度をご理解いただくための活動を継続します。さらに、退職金の適正な水準の確立を図り、当財団の退職資金交付事業の改善と充実を目的とした退職金等に関する実態調査についても継続して実施することを計画しています。

#### ■ 2019年度の退職資金交付事業に係る収支計画

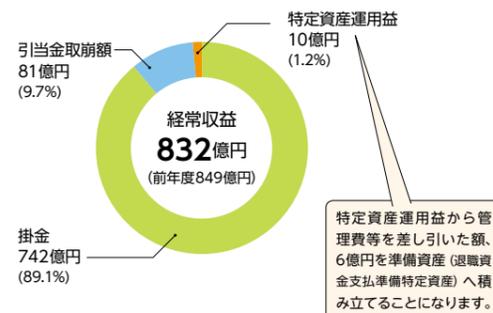


※ 2011(平成23)年度に退職資金交付金に充当した額(退職資金支払準備特定資産)に残額がある法人のみ

## 収支予算の概要

### ■ 経常収益

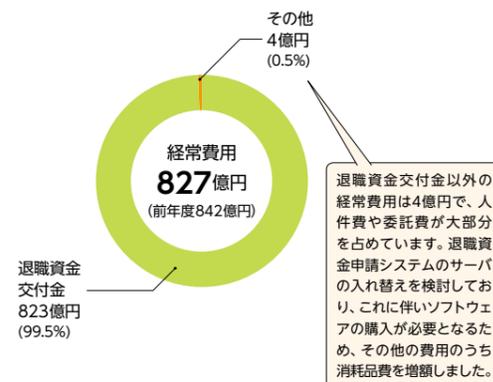
経常収益の89.1%を占める事業収入(掛金)は、3年ごとに実施する将来推計に沿った計画をもとに、前年度より20億円多い742億円としました。また、準備資産(掛金蓄積分)から81億円を取り崩して退職資金に充当(引当金取崩額)することなどにより、経常収益計は832億円となります。



科目	2019年度	2018年度	増減額
基本財産運用益	120万円	132万円	△ 12万円
特定資産運用益	9億8090万円	10億9753万円	△ 1億1663万円
事業収入(掛金)	742億円	722億円	20億円
登録料	800万円	800万円	0円
加入金	8万円	8万円	0円
引当金取崩額	81億円	116億円	△ 35億円
経常収益計	832億9018万円	849億693万円	△ 16億1675万円

### ■ 経常費用

経常費用の99.5%を占める退職資金交付金は、前年度に対して15億円減の823億円としました。退職資金交付金以外の費用につきましてはほぼ前年度と同額で、経常費用計は、827億円となります。



科目	2019年度	2018年度	増減額
退職資金交付金	823億円	838億円	△ 15億円
役員報酬	2865万円	2865万円	0円
給料手当	9319万円	9319万円	0円
減価償却費	2480万円	5015万円	△ 2535万円
賃借料	2277万円	2418万円	△ 140万円
委託費	1億4521万円	1億4143万円	378万円
その他	9459万円	8432万円	1027万円
引当金繰入額	228万円	228万円	0円
経常費用計	827億1149万円	842億2420万円	△ 15億1271万円

### ■ 経常増減額と正味財産

資産の減少及び国債等の運用環境から、運用益が減少する見込みです。当期経常増減額は、約5億7868万円となりますが、当初の見込みどおり正味財産期末残高(ほぼ退職資金支払準備特定資産)は、117億円となります。



科目	2019年度	2018年度	増減額
経常収益計	832億9018万円	849億693万円	△ 16億1675万円
経常費用計	827億1149万円	842億2420万円	△ 15億1271万円
当期経常増減額	5億7868万円	6億8272万円	△ 1億404万円
一般正味財産期末残高	116億252万円	108億8169万円	7億2083万円
指定正味財産期末残高	1億円	1億円	0円
正味財産期末残高	117億252万円	109億8169万円	7億2083万円

# M字カーブ解消の後押し！ 人生100年時代の新リカレント教育



日本女子大学  
**坂本清恵** 生涯学習センター所長  
文学部教授(写真左) **松梨久仁子** リカレント教育課程主任  
家政学部准教授(写真中央)  
聞き手:私立大学退職金財団 **荻原悦子** 管理部副主幹(写真右)

## 「リカレント元年」を迎えて

荻原 日本政府の「働き方改革」の一環として、女性の活用が進められています。これに伴って、社会人の再教育(リカレント教育)に注目が集まっています。就業経験はあるものの、出産・育児や介護のために離職せざるを得なかった女性が、リカレント教育によって「新たな働き手になってくれるのではないか」と期待されているわけです。とりわけ、2018年3月に政府の「人生100年時代構想会議」で、安倍首相が「リカレント教育の財源拡充」を明言した影響は大きく、2018年は「リカレント元年」とも呼ばれました。

そこで、内閣府の「平成29年度女性のチャレンジ支援賞」を受賞するなど、女性のリカレント教育で定評のある

貴学に、その現状や課題について教えていただけないでしょうか。

坂本 ありがとうございます。初めにお断りさせていただくと、本学としては、女性のリカレント教育に長年取り組んでまいりましたので、やや僭越な言い方をすれば、そうした取り組みに「ようやく光が当たるようになったのかな」と受け止めております。

荻原 そうですね、貴学は、日本でのリカレント教育の先駆けとしても知られています。その背景を教えてくださいませんか。

坂本 そもそも本学の創立者である成瀬仁蔵先生は、「良妻賢母」ではなく、「職業婦人」の育成を建学の理念として掲げてきました。「女性も職能を身につけ、社会で活躍するべきだ」と考えていたわけです。そのため本学

では、いわゆる教養だけでなく、実学の修得にも重きを置いてきました。

また、多くの女性に教育の機会を与えるため、通信教育部を日本の高等教育機関として3番目に設け、70年以上の歴史も重ねてきました。

さらに本学同窓会である「桜楓会」と連携し、生涯教育も手がけてきました。そうした伝統がベースにあったので、リカレント教育もいち早く取り入れたわけです。

荻原 貴学がリカレント教育課程を開設されたのは2007年、日本で初めての試みだったとかがっております。直接的なきっかけは何だったのでしょうか。

坂本 文部科学省がリカレント教育プロジェクトである「社会人の学び直しニーズ対応教育事業」をスタートし、

本学がその事業委託先として選ばれたのです。長年の生涯教育の実績が認められたからだと考えております。

荻原 現在では、貴学以外の大学でもリカレント教育を実施しているわけですが、貴学のリカレント教育の特徴について教えていただきたいと思います。

まず一つ目が、企業や団体のスタッフとして即戦力となる人材の養成とうかがっておりますが、なぜそのような教育方針を打ち出されたのでしょうか。

坂本 医療者や技術者といった専門職養成のための教育は、それが「リカレント教育である」という認識だったのかは別にして、伝統的に行われていました。しかし一般のビジネスパーソン向けのリカレント教育は、ほとんど広まっていなかったのです。ところが女性の場合、企業や団体に就職しても、結婚や出産、夫の転勤などを機に退職し、仕事上で長期間のブランクができてしまう人が多いんですね。そうすると、年齢が高い上にスキルも足りないということで、再就職が難しくなってしまうのです。そのため、「リカレントで職能をブラッシュアップしたい」というニーズが、女性にはとても高いことがわかりました。

また、「高学歴の女性がパート労働しかできないのは国力の損失」という問題意識も、政府内や教育界で高まってきました。そこで、ビジネスパーソンの養成に特化したカリキュラムにしたんですね。

## カリキュラムの3本柱

荻原 貴学のリカレント教育課程は4月入学で、1年間の通学(17年度平均履修時間約350時間)を課す全日制です。夜間制のリカレント教育も多いなか、なぜそのようなカリキュラムにされたのでしょうか。

リカレント教育の授業風景。「記録管理概論(記録情報管理士準備講座3級対策)」クラス  
(提供:日本女子大学)



坂本 リカレントの受講生には、できるだけ早く復職を果たすため、短期集中で学んでもらいたいというのが一点です。全日制のほうが学びに専念でき、スキルアップが図りやすいという利点があります。

もう一点は、仕事と家庭を両立させるための、いわば“予行演習”をしてもらうのが狙いです。本学のリカレントの受講生には主婦も多く、学業と家事・育児を両立させなければなりません。それをこなした経験が、復職したときに昼間は仕事、朝と夜は家庭の両立を続ける自信につながります。

また、受講生のご主人、お子さんにとっても、「妻や母が仕事を始めたら、家庭環境がどのように変化するのか」を疑似体験ができ、復職を応援してもらいやすくなるメリットもあります。荻原 なるほど、よくわかりました。次に、ビジネスパーソンを養成するリカレント教育とは、具体的にはどのようなカリキュラムなのか。

松梨 必修科目には3つの柱があります。一つ目は「キャリアマネジメント」です。これはスキルというよりも、職業人としての心構えを身につけるもの。なぜなら、長らく家庭に入っていると、ビジネス感覚が失われてしまうからです。ビジネスパーソンとしての自覚を取り戻し、「自分にいまどんな市場価値があるのか」「どうやってキャリアアップすればいいのか」といったことを理解するのが、仕事に復帰する上で欠かせません。

それから、「就職氷河期世代」だった受講生は、非正規雇用の経験しかないケースも多いため、正社員・正職員としてのキャリアプランを構築できるように教育する必要もあります。キャリアカウンセラーなど専門家の指導を受けるほか、学生同士のディスカッションなども行い、自らのキャリアプランについてお互いに気づきを得る場も設けています。

荻原 すごく実践的ですね。私も興味が湧いてきました。  
松梨 二つ目は英語です。ビジネスシーンがグローバル化している現在、ぜひ身につけてもらいたいスキルだからです。とりわけ、職場ですぐに使えるビジネス英語を習得します。

そして、三つ目がIT。今やビジネスパーソンにとって、ITは必修のスキルといえるでしょう。ITは日進月歩なので、家庭に入る前に職場で覚えたパソコンなどのスキルは、残念ながら役に立たないんですね。ビジネスの現場でいま使われているITについていけるように、学び直す必要があるのです。

荻原 そのほかに、力を入れておられることはありますか？  
松梨 「日本語コミュニケーション論」を必修にしています。仕事のスキルやノウハウも重要ですが、ビジネスパーソンにとっては「それ以上にコミュニケーション能力が命なのよ」と、私は声を大にして受講生に口うるさく言っています。ビジネスマナー、ビジネスメールの書き方なども学びます。

## 多彩な専門職講座

荻原 ビジネスパーソンの養成講座と謳っている意味がよくわかりました。必修科目以外にも、キャリアアップに役立つさまざまな講座が揃っているそうですね。

松梨 専門職向けの講座も開いています。これは、学びの過程で自分の適性がわかったり、新しい希望職種に巡り合ったりして、ビジネスパーソン以外の専門職を目指す受講生も出てくるからです。

具体的な専門職としては、社会保険労務士、消費生活アドバイザーなどが人気ですね。ただし、あくまでも専門職になるための準備講座なので、資格を本格的に取得したい場合は、修了後の学びも必要になります。そのほか、時間を効率的に使うための「タイムマネジメント講座」なども開講しました。

荻原 リカレント教育課程では、どんな受講生さんが学ばれているのですか。  
坂本 17年度については定員40人のところ89人が応募し、55人が入学しました。入学試験では、適性を見るためにITと英語のテスト、面接を行いました。受講生のうち約70%が既婚者で、お子さんがいる人も多くいらっしゃいます。また、約30%が主婦ですが、約40%が非正規雇用で働いていたということで、「正社員として就職したい」という受講生も目立ちます。

年齢では40代が6割近くを占めますが、50代の方もいます。それから、開講時は全員が本学卒業生でしたが、累計では75%以上が他大学の卒業生です。受講生は基本的に女性ですが、公開講座などの聴講生のなかには男性もいます。

荻原 入試の倍率が2倍とは、すごい人気ですね。キャリアアップのための

お話をうかがった日本女子大学の坂本清恵生涯学習センター所長(左)、松梨久仁子リカレント教育課程主任



実践的なプログラムが豊富だからでしょうか。

坂本 それもあると思います。また、学部学生並みの授業を3分の1の費用で学べることも人気の理由でしょう。16年から文部科学省の「職業実践力育成プログラム」の認定、厚生労働省の「専門実践教育訓練講座」の指定を受けるなど、公的な財政支援も追い風になっていますね。

## 手厚い再就職支援

荻原 それから、手厚い再就職支援も大きいのではないのでしょうか。貴学のもう一つの特徴とうかがっておりますが、再就職支援についても詳しくご紹介ください。

坂本 リカレント教育では再就職という出口戦略を重視しています。受講生を送り出しても仕事に就けなければ、「ビジネスパーソンの養成」という目的が果たせないからです。そこで、本学では、東京商工会議所と再就職支援協定を結ぶなど、企業や団体、官庁とも連携して再就職先を支援したり、インターンシップや合同企業説明会を通じて受講生が即戦力となることを理解してもらったりしています。

例えば、17年度に「合同企業説明会」を開催したところ、37社が参加してくれました。リカレントの受講生の採用実績がある企業・団体からは、修了生が即戦力として活躍しているの、「もっと採用を増やしたい」という

声も増えていますね。それから、修了時だけでなく、その後も再就職支援を続けます。修了生の転職や独立・起業といったキャリアアップのサポートも行っています。

荻原 修了生の再就職の実績はどうなっていますか。

坂本 現在では約300件の求人があり、就職希望者のほぼ100%が就職できています。そのうち、フルタイム勤務が約70%、正社員・正職員が半数近くとなっています。

荻原 修了生が女性で、しかも、中高年が多いことを考えると、見事な実績ですね。リカレント教育では今後、どのような目標や抱負をお持ちでしょうか。

坂本 女性がリカレント教育を受けられる機会を、なるべく増やしたいと考えています。今後は「仕事を続けながら再教育も受けたい」という女性が増えると予想されるからです。そこで、土日中心の受講コースを新たに設けたり、他大学のリカレント教育課程と連携したり、インターネットを活用した「eラーニング講座」で地方の方も受講しやすくしたりする取り組みを検討しています。

荻原 すばらしいお考えです。女性の学びの機会が拡大し、女性が社会でより輝けるようになることを、私自身も女性の一人として願っております。本日はたくさんの有意義なお話を聞かせていただき、誠にありがとうございました。

トマトらーめん  
就勝手帳

## 明治大学



## 学生が「自己効力感」を高められる貴重な機会

自己効力感とは、課題に直面したとき「自分ならできる!」と思える力のことです。最近の学生は、この自己効力感が低いと感じられてなりません。受験というハードルを乗り越えて大学にいますから、もう少し自分に自信を持っていいように思うのですが、ゼミの学生を見ていると失敗を恐れて行動をためらったり、行動しなかったりすることが目立つのです。

だから私は、産学連携のゼミで、学生たちに「企業を説得し、企業と一緒に、自分たちのアイデアを商品化して世の中に送り出そう」と提案してきました。そのおかげか学生の士気は高まり、これまで数々のアイデアを実用化できました。

その一つが、力の源ホールディングス社傘下の渡辺製麺社と共同開発した「トマトらーめん」で、学生アンケートで関心の高かった「健康志向」がテーマ。レイメイ藤井社と提携した「就勝手帳」は、就活スケジュールを書き込みやすくするなど、学生のアイデアをふんだんに盛り込みました。

しかし産学連携で大切なのは「成果」よりも「過程」です。たとえ商品化に至らなくとも、企業側の担当者を前にプレゼンを重ね、市場ニーズを調査・分析して自らの考えを伝えることは、学生を大きく成長させます。私は、そのこと自体に産学連携の意味があるのだと確信しています。要は、「主役は学生」だということです。

## 自発的に取り組むことでモチベーションが高まる

このような考えから、私はこれまで黒子に徹してきました。トマトらーめんの開発では、ラーメンに対する学生のニーズを把握するため、事前にアンケート調査を行いました。私は効果的な質問

要諦は「学生の成長」。  
すぐに商品化できなくても気にしない!

の立て方について多少アドバイスする程度に、口出しをとどめました。企業へのプレゼンも構成や資料作成など、すべて学生たち自らが考えており、私はビジネスの視点から「こうしたほうがより訴求力が高まる」といった意見を出す程度に抑えています。

学生が主体的に取り組むことは、モチベーションを高く維持でき、困難に直面したときも気持ちが折れにくいという利点もあります。提携する企業探しは、30社回ってようやく1社からOKをもらえるくらい難しいものです。この企業探しも学生たちに任せていますが、「先生にやらされている」と思ったら、途中で投げ出してしまおうでしょう。「なぜ断られたのか」と原因を探り、次回に向けて改善しようとする意欲が湧くのも、自発的に取り組んでいるからこそなのです。

モチベーションを維持するため、私が取り組んでいることの一つが、2~3週間ごとに企業側担当者を変えて行う勉強会です。このくらいの頻度で宿題を持ち帰り、取り組むことで、「進んでいる」という実感が得られるのです。

また、企業と提携できる可能性を高めるためには、指導教員が自身の研究成果を広く発信することも欠かせません。企業は消費者のニーズに応えるためのヒントを日夜探しています。そのアンテナに引っかかれば、連携のチャンスは高まります。学内に閉じこもらないで、積極的に研究成果を発信することが、産学連携を現実のものとし、学生の成長につながるのです。



## profile

木谷光宏(きや・みつひろ)

明治大学政治経済学部教授。人材育成学会会長、広告電通賞テレビ広告審議委員なども務める。専攻は産業心理学。指導する木谷産業心理学ゼミナールでは、商品のマーケティングや企画・開発などに産学連携で取り組む。著書は『地域産業とコミュニティ』(共著・白桃書房)、『産業・組織心理学入門』(共著・福村出版)、『大学生の就職と採用』(共著・中央経済社)など。

# 聖学院大学

ボランティア活動支援センター



広く学生に門戸を開く聖学院大学ボランティア活動支援センターの受付窓口。左からアドバイザーの川田虎男さん、コーディネーターの芦澤弘子さん、教井美由紀さん。右が学生の玉之内菫さん(手前)、山下佑太さん(奥)

## 「ボランティア」を授業、サークル、バイトに並ぶ“学生の日常”に！

### 神を仰ぎ、人に仕う精神と学生の思いが合致

魚のボラの写真に「ボラに本気です」というコピーを乗せたインパクトのある広告で、ボランティアを大学の特色としてアピールしている聖学院大学。「支援を必要とする人」と「支援したい学生」を結ぶため、2012年4月に設置されたボランティア活動支援センターでは、学生一人ひとりに合ったボランティアを紹介し、活動を通じた学生の成長を応援しています。

「ボランティアへの学生のハードルを下げるため、あらゆる手段を使っている」と話すのは、ボランティア活動支援センター(以下ボラセン)でアドバイザーを務める川田虎男さん。

「年に2〜3回、お茶を飲みながら気軽

にボランティアについて触れることができる“ボラTea”という場を設けたり、入学式の後、戦隊コスチュームを着た学生5人組の“サボメンジャー”が勧誘を行ったりしています。といっても、サボメンジャーは新生入生に“ボランティア”というワードを印象づけて去っていくだけですが(笑)。それでも、やりたいと思ったときに思い出してもらえることが大事ですから、それでいいんです」

こうした地道な活動により、聖学院大学では約6割の学生がボランティアに興味を持ち、その4割が実際にボランティア活動に関わっています。それほどまでボランティア活動が定着している背景には、ボラセンの取り組み以前に、建学の精神の下支えがあるのだと川田さんは言います。

「『神を仰ぎ 人に仕う』という建学の精神は、イエス・キリストの根源的な戒めである“主なるあなたの神を愛せよ”と“あなたの隣人を愛せよ”からくみ出されたものです。ボランティア精神と親和性が高いのでしょう、ボラセンが設置されるよりも前、大学創設当時から多くの学生がボランティア活動に励んでいたそうです」

### 始まりは2000年設置のボランティア部会

建学の精神と、学生の情熱。その両輪に支えられ、脈々と受け継がれてきたボランティア活動は、1995年の阪神淡路大震災を大きな契機として転換期を迎えます。

「それまでボランティア活動への参

加は学生の自主性に任されていたが、継続性を高められるよう、大学側がサポートしようという機運が高まったのです。本学では2000年に学生運営のボラセンであるボランティア部会を設置し、支援をスタートしました。その後、第二の契機となったのが2011年の東日本大震災で、本学では直後に復興支援ボランティアセンターを立ち上げ、翌年にこれをリニューアルする形でボランティア活動支援センターが設置されたのです」

ボラセンの役割には大きく二つあります。一つは、ボランティアに興味を持つ学生の初めの一步を応援すること。もう一つは、ボランティア活動をしている学生の悩みや迷いに寄り添うことです。これらを果たすため、専門職であるコーディネーターは、教職員(タテ)とも友達(ヨコ)とも違う「ナナメの関係」として学生と関わります。

「学生一人ひとりと丁寧に関わるといのが私たちの活動の基本です。特に最初の関わり方が大切で、ボランティアに関する各論をする前に、“あなたはこういう人で、どういう生き方をしたいのか”ということをしつくり聞いていきます。進路を見据えた話になることも珍しくありません」

しかし、ボランティア活動はあくまでも学生が主体ですから、職員が指示を出すことはありません。

「大前提は、学生本人が考え、自分で決めること。私たちの役割は、ボラン

## すべての学生の選択肢にボランティア活動がある。そんな文化をつくりたい

ボランティア活動支援センターアドバイザー  
川田虎男さん



ティアの敷居を限りなく低くして、間口を広げること。そして、ボランティア活動をしている学生がより輝くため、全力でサポートすることです。活動をしていると多かれ少なかれ挫折や迷いを経験しますから、そのときにそっと寄り添ってあげられる存在でありたいと思っています。授業、サークル、アルバイトに加え、ボランティアが学生の日常にある文化をつくりたいという思いです」

### 活動を通じて人間的に成長する学生たち

聖学院大学ではふだんの授業においても、ボランティア関連科目を豊富に開講しています。その背景を、川田さんはこう説明します。

「ボラセンの運営委員会には全学科の先生が関わっていて、ボランティア活動に積極的にコミットしてくれています。さらに、全学的な支援体制があり、かつ小規模大学の強みとして、センター主催の復興支援活動などは、1年生の必修科目で告知できるようになっています。ど

ちらも『ボランティアが当たり前』の文化につながる話ですが、全学的な関わりと先生方の力添えは大きな強みであり、本学の特色なのかもしれません」

実際、授業を履修したことがきっかけでボランティア活動をするようになった学生、あるいはボランティア経験を授業で深化させる学生も多くいます。

1年生の玉之内菫さん(心理福祉学部心理福祉学科)は、「ボランティア体験の言語化技法と実践」という授業を履修したことがきっかけで、ボランティアに興味を持った一人。

「授業のレベルが高くて最初は戸惑いましたが、復興支援のプロジェクトリーダーを任されたことで、自分の考えを論理的にまとめ、相手に伝わるように話す力が身につきました。数あるボランティアの中から自分の興味ある活動に参加できるだけでなく、問題意識があれば、学生でもいちからボランティア団体を立ち上げることができる点は、聖学院大学の魅力です。私は今、ネット依存の子どもをサポートするボランティア団体の立ち上げを準備しています。今後はファミリーテーターとしての役割を果たせるよう、経験を積んでいきたいです」(玉之内さん)

同じく1年生の山下佑太さん(同学科)は、聖学院大学でボランティアに参加したことで、人生が変わったと話してくれました。

「入学後初めての夏に、復興支援ボランティアとして岩手県釜石市へ行きまし



玉之内菫さん(左)は「ボランティア活動を通じて『輝いているね』と言われるようになった」と、この1年を振り返る。山下佑太さん(右)は「自分が経験したことを学外や母校の後輩たちに発信したい」と積極的だ

た。動機は『何となく』という程度でしたが、僕たちが行くたびに現地の人喜んでくれましたし、町が変化していく様子を見られたことも嬉しかったですね。子どもを対象にしたクリスマスのワークショップでは、ケガをせずに楽しめる方法を試行錯誤しながら準備しました。当日、子どもたちの笑顔を見たときには、やってよかったと思いました。高校時代は目標を探すことで精いっぱいでしたが、ボランティアを通して自分自身も成長することができ、今は充実しています。今後は自分の経験を母校や地域の高校などで積極的に発信していきたいです」

同様の学生は、地域の高校などでボランティア活動について講演する機会もあります。彼らの話を聞いた高校生が関心を深め、「聖学院大学でボランティアをやりたい」と入学してくる好循環も生まれています。

また、川田さんによると、ボランティア活動を熱心に行った学生は就職活動も有利に進めているそうです。

「活動を通じてコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身につくからです。希望する就職先はさまざまですが、ほとんどの学生が早い段階で内定を得ています」

### 熱い思いさえあれば活動は続いていく

昨年、予想もしていなかった連絡がボラセンに届きました。平成30(2018)年



平成30年度ボランティア功労者厚生労働大臣表彰の記念置時計とともに



「釜石原木しいたけ再生プロジェクト」の活動で森の整備をする山下さん(提供:聖学院大学)



釜石・大槌郷土料理研究会のお母さんに料理づくりのコツを教わる玉之内さん(提供:聖学院大学)

度ボランティア功労者厚生労働大臣表彰を受賞したというのです。川田さんは「第一報を受けたときは『なぜうちが?』と思った」と言いながらも、受賞理由をこう見えています。

「今年度の取り組みだけが受賞理由ではなく、長年にわたりボランティアに取り組んできたすべての学生に対する表彰だと認識しています。私たちは今後も変わらず“本気”で活動の応援を続けていくだけ。言ってしまうと、私たちがいなくても、学生たちに“思い”さえあれば活動は続いていきます。その一方、『ボラの聖学院』と注目されることにより、徐々に期待される役割が大きくなって

るのも事実です。これからも地域とのつながりを大切にしながら、地域のボランティアイベントの企画や、全国のボランティアセンターのハブの一つとして、今まで以上にさまざまな役割も担っていかれたらと思います」

ボランティア活動へのハードルを下げ、「興味」「関心」のある学生に対しての受け皿をつくること、その活動を通して学生一人ひとりの人格形成を支えていくこと。地域貢献にとどまらず、社会で活躍する人材を輩出するための土壌づくりともいえるボラセンの取り組みは、学生と社会の未来を変える可能性を秘めているのではないのでしょうか。

### 学校散歩

#### 学生や近隣住民が集う 聖学大のシンボル「チャペル」

2004年に完成した聖学院大学のシンボル「チャペル」。木材をふんだんに使い、優美な曲線と幕屋のような天蓋をイメージした天井が印象的な荘厳で美しい建築物で、ガラスアートなど、細部のデザインも凝っています。1階・2階と合わせて1000人を収容でき、礼拝だけでなく、入学式などの式典やコンサート、卒業生の結婚式などさまざまな目的で使われています。



設計は学校建築を多く手がける香山壽夫氏。香山氏はこのチャペルにより、2005年度の日本芸術院賞を受賞しました。



# 維持会員通信

MEMBERS



## 学びを深化する 6つのクロスオーバー型教育

▶ 法人名 愛知学院

▶ 大学名 愛知学院大学

本学のカリキュラムの特徴がクロスオーバー型教育です。学部や学年、社会、国境を越えてつながり、学び合うことで、社会の現実を知り、解決すべき課題と向き合ったり、幅広い学問に触れたりすることを目標としています。教育内容は6つのカテゴリーで構成されています。

1つ目は「ビジネス・コラボレーション」。新企画・新商品開発など、企業との連携を通して、ビジネスを動かす実践力を養います。これまで、日本航空、近畿日本ツーリストとの協働による「ハワイ旅行の商品開発」(2015年秋発売)や、プロバスケットボール・Bリーグに所属するシーホース三河がホームゲーム開催時に行うイベント企画・運営などを行ってきました。

2つ目の「コミュニティ・コラボレーション」は、学外に出て視野を広げ、地域の課題と向き合いながら、協働の場で活躍するコミュニティ・リーダーを育成するというもの。キャンパスがある愛知県日進市の観



Bリーグ・シーホース三河のホームゲームでは、学生が運営をサポートしています。

2018年4月、本学大学院生の古賀碧さん(工学研究科)がバイオベンチャー企業の株式会社Ciamoを設立し、代表取締役社長に就任しました。同社では、焼酎粕で培養可能な光合成細菌を安価で大量に培養できるキット「くまレッド」の研究開発、製造販売を手がけています。

古賀さんは、かつて本学の起業部「SOJO Ventures」に所属していました。SOJO Venturesは、大学発のベンチャー起業家の輩出と育成を目標に掲げ、2014年10月に創部しました。いわゆる「起業サークル」とは一線を画した、日本初の大学公認の起業系部活動です。ここでは専任教員や経験豊富なアドバイザーのもと、ビジネスプランの作成や、学内外のビジネスプランコンテストへの応募、起業家やベンチャーキャピタリストとの交流、国内外の合宿やイベント参加、シリコンバレーでの研修など、多彩な活動を行っています。

起業部はまた、サンフランシスコの「崇

城大学シリコンバレーオフィス」をはじめ、多くの外部講師によって支えられています。2017年にはファンド会社のSOJOスタートアップラボ株式会社を設立し、学生起業の資金支援体制を整えました。株式会社Ciamoも、設立時にはSOJOスタートアップラボからの出資を受けています。

同社で手がける「くまレッド」の研究開発・販売事業は、会社設立以前から評価が高く、2017年には「第6回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」で最優秀賞(文部科学大臣賞)を、「第13回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」でも文部科学大臣賞(テクノロジー部門大賞)を受賞しました。光合成細菌は応用範囲が広い一方で生産コストがかかることが課題となっています。焼酎粕での培養は低コスト化を実現し、類似商品の半額程度の売価を設定することができました。古賀さんによると、5年後には10億円の売り上げを見込んでいるそうです。

光まちづくりへの参加や、名古屋市と地元商店街との協同による街角資料館の活用プロジェクト、地元商店街の夏まつりの企画・運営、「名物おやつ」の開発など、さまざまなことに取り組んでいます。

3つ目は「クロスオーバー・カリキュラム」。学際的な知識と経験の習得をめざした学部・学科間の連携教育で、商学部・経営学部・経済学部の3学部が設定する「共通科目」「連携科目」がその例です。

4つ目の「グローバル・コミュニケーション」には、学部・学科独自の海外プログラムや国際ボランティアなどが含まれます。学内外の異文化交流を通して、グローバルな視野を養うのが目的です。

5つ目が「ラーニング・アシスタント」。先輩が後輩を支援する仕組みにより、学生の相互成長を実現しようというものです。

6つ目の「4キャンパス」は、日進・名城公園・楠元・末盛の4キャンパスそれぞれで展開する独自の教育を指しています。

## 02 現役院生が バイオベンチャー 企業を設立

▶ 法人名 君が淵学園

▶ 大学名 崇城大学



株式会社Ciamoの古賀碧社長(中央)と設立メンバー。右端は指導教員の宮坂均教授。

## 03 国分寺市と協定町の魅力を発信するコンシェルジュ

- ▶ 法人名 東京経済大学
- ▶ 大学名 東京経済大学



国分寺駅構内の市案内所で、観光客や地域の子もたちに町の魅力を発信しています。

東京経済大学は大学が所在する国分寺市と協定を結び、学生ボランティアが国分寺市内の街案内をする「ぶんじコンシェルジュ」の活動をスタートさせました。JR中央線の国分寺駅構内にある国分寺市内所を活動の拠点として、国分寺の魅力、市民や国分寺を訪れる皆さんに発信していきます。活動初日の2018年12月8日(土)と翌9日(日)は、10時から16時まで「ぶんじコンシェルジュ」が案内所に駐在しオープニングイベントを実施しました。当日は、国分寺に関連するクイズに答えるともらえるバッジや、お子さま向けの風船などを用意し、連日200名を超える来場があり大盛況となりました。

ぶんじコンシェルジュの運営は、物々交換をして得た物品を換金し、地域貢献のために募金活動を行う大学の学生組織「こくスマ実行委員会」が担っています。学生たちは「ぶんじコンシェルジュ」として活動するため、事前に国分寺市観光協会のレク

チャーを受け、認定された学生のみがコンシェルジュバッジを付けて対応にあたります。現在、ぶんじコンシェルジュ星1つに認定されている学生は18名。今後、国分寺検定等の試験を受け知識が増えと星の数が増え、最高位は星3つです。

活動は、毎週月・火・水曜(祝日を除く)の週3日、17時から19時までの予定です。コンシェルジュのなかには留学経験のある学生もおり、英語での対応も可能。2019年のラグビーワールドカップや2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けたインバウンド体制も整えています。2019年度以降は、活動の幅を更に広げ多言語対応の国分寺MAPの作成や、コンシェルジュ活動時間の充実を図ります。ぶんじコンシェルジュの代表を務める岸凜汰郎さん(コミュニケーション学部3年)は「地元の人や国分寺を訪れる人たちとの情報が行き交い、地域が繋がっていく場となることを期待しています」と、抱負を語っています。

## 05 俳句を通して子どもたちが言葉の楽しさを体験

- ▶ 法人名 佛教教育学園
- ▶ 大学名 佛教大学
- 京都華頂大学
- 華頂短期大学



表彰式は毎年小学校の春休み中に挙行し、佳作を除く入賞者を招待しています。

佛教大学では、文学部、教育学部を設置する特色を活かし、子どもたちの言葉の世界を生き生きとしたものにしていくために、2007年から「佛教大学小学生俳句大賞」を実施し作品を募集しています。この取り組みは2018年で12回目となります。

毎回、小学生が普段の暮らしのなかで得た体験や感動を、素直で柔らかい心で詠んだ一句一句に、子どもたちの無限の世界を感じます。第1回の応募句数は1万3000句余りでした。

以来、応募句数は年々増え、前回(2017年)は低学年の部(1~3年)、高学年の部(4~6年)をあわせて3万6317句にのぼりました。応募地域は日本国内だけでなく、海外にもおよんでいます。学校単位での募集も受け付けており、昨年は全国39都道府県の319校から応募がありました。

選考は、俳人でもある大学の坪内稔典名誉教授、京都造形芸術大学長で公益社団法人俳人協会名誉会員の尾池和夫氏、第

55回H氏賞受賞詩人で俳人でもある山本純子氏のほか、本学の田中典彦学長など、合計6名の選考委員により行っています。入賞者には賞状、記念品の贈呈のほか、表彰式に招待(佳作を除く)し、入賞作品をまとめた作品集をプレゼントしています。

本学では、今後も子どもたちの健やかな成長の支援につながる取り組みを続けていきたいと考えております。

最後に少し宣伝させていただきます。「佛教大学小学生俳句大賞」が2016年に10回目を迎えたことを記念し、『小学生のための俳句入門 君もあなたもハイキング』(くもん出版、2018年4月)を出版しました。第10回までの「佛教大学小学生俳句大賞」入賞作品から選んだ175句を10のジャンルに分けて掲載した俳句入門書です。学校や家庭でも楽しく読むことができ、俳句づくりの参考書としても活用していただけます。全国の書店にて発売中ですので、ぜひ一度お手にとってご覧ください。

## 04 新キャンパスは自然・地域・交流の接点がテーマ

- ▶ 法人名 常葉大学
- ▶ 大学名 常葉大学



2018年4月、JR草薙駅近くの新キャンパスが誕生しました。写真は図書館の夜景。

キャンパス」から2学部2研究科、東部の「富士キャンパス」から3学部1研究科、そして短大部からも3学科が移転し、4100人を超える学生が新キャンパスに集い、充実した環境のなかで学習や課外活動にいそんでいます。

新キャンパスのコンセプトは、自然・地域・交流の接点となる地方中核都市型キャンパスです。校舎外観は、シティホテルと見まごうばかりの美しいフォルムを醸し出す一方、採光や通風等の自然環境を積極的に取り入れ、富士山の眺望を活かしたすたが特徴の1つです。また、周囲との境界を塀や壁で隔てることなく、市民が気軽に訪れることのできる開かれた空間とすることで、地域連携の機能も果たせるつくりとなっています。さらに、校舎内の施設をすべて共有スペースとすることによって、学校種や学部など所属の異なる学生間の交流を促進し、知のイノベーションを生み出す工夫も凝らされています。

本学は1980年の開学以来、「より高きを目指して～Learning for Life～」の建学の精神のもと、地域を支える中核的な人材の育成を目指し、グローバルな視点に立った教育研究活動を実践してきました。こうしたなか、18歳人口の急減や大学の大量化など、高等教育を取り巻く環境が激変する時代を見据え、さまざまな大学改革に取り組んでいます。2013年には法人傘下の3大学を統合するとともに、2学部を新設しました。これにより10学部19学科、4研究科を有する静岡県内最大規模の私立大学となり、進学希望者の選択肢が格段に広がることにも、大学進学者の県外流出に一定の歯止めをかけることにもつながりました。

2018年4月には、静岡市の文教地区に「静岡草薙キャンパス」を開設しました。JR草薙駅に近接し、国道1号に面する絶好のロケーションに、鉄骨造5階建(一部6階建)の校舎4棟とアリーナ1棟を新築しました(敷地面積4万3000㎡)。県中部の「静岡瀬名

東京交通短期大学は全国の短期大学で唯一「運輸科」を設置しています。開校は1952年。当時、国内の陸上交通の主役だった鉄道業界からの要請を受け、交通関連産業に携わる人材育成のほか、就労者に教育を提供する目的で創立しました。以来、鉄道・交通業界はもとより、流通業界、観光業界にも多くの人材を輩出しています。

本学の特徴がカリキュラム。人文系、社会系、自然科学系、外国語などの「基礎科目」のほか、「交通科目」「観光科目」が充実している点は、本学ならではの強みです。

交通科目は、鉄道をはじめとする交通業界への就職を想定したもので、交通の基礎や現状の問題点、課題解決策などを学習します。特徴的な授業の1つが「鉄道基礎」。学園内のシミュレーター館で運転のシミュレーションを行います。運転技術の教習にとどまらず、事故発生時の対応方法など、鉄道員の心構えを身につけるものとなっています。

ほかに、政府や地方自治体と交通との関係を学ぶ「交通政策論」、建設・技術・事故・運営の4つの視点で鉄道の歴史を学ぶ「鉄道史」などの授業があります。

観光科目は交通や宿泊など、旅行に関する領域を学習するもので、接客業に求められるおもてなしの心を学ぶ「ホスピタリティ論」、各種交通の約款や運賃の計算方法などの専門知識を身につける「旅行実務論」などの科目を用意しています。

これらのほか、コンピュータ実習科目をはじめとして企業活動などを学ぶ「経済・経営・情報科目」、鉄道事業者の経営者や交通産業の専門家を招いて行う「特別教養講座」、それに6つの「専門ゼミ」によってカリキュラムを編成しています。

進路指導は就職支援のほか、4年制大学への編入希望者のサポートなど、柔軟に対応しています。資格支援も手厚く、夏期には「国内旅行業務取扱管理者」の特別講習も開講しています。

## 06 交通産業人材を輩出する全国唯一の短大「運輸科」

- ▶ 法人名 豊昭学園
- ▶ 大学名 東京交通短期大学



鉄道シミュレーター館では「鉄道基礎」などの授業で運転シミュレーションを行います。

# デキる学校の SNS & Web サイト新戦術

Webメディア評論家 落合正和

高校生や大学生などの若年層にとって、SNSの影響力は絶大。若者を“主客層”とする大学ではPR戦略に役立てたいところですが、しかし、本当に効果的に使うことができるのでしょうか。

## 2種類のオンラインメディアを使い分ける

かつて大学や短期大学のWebサイトといえば、ただ一つの公式サイトがあるくらいでしたが、近年は志願者向けの特設ページにブログ、FacebookにTwitterと、多彩をきわめています。その半面、同じ情報を複数のメディアに重複掲載しているケースも少なくありません。せっかくなら、メディアの特性に合わせて見せ方を変え、効果的に利用したいものですね。そこでまず、オンラインメディアには、Webサイトやブログのような「ストック型」と、SNS(ソーシャルネットワークサービス)のような「フロー型」の2種類があるということを整理しておきましょう。

ストック型は、検索エンジンにかかるメディア。カリキュラムや教員プロフィール、研究領域、就職支援など、賞味期限の長いコンテンツの掲載に向いています。「在校生・卒業生インタビュー」や、「ユニークな研究室紹介」といった読み物ページ、イベントなどを収録した動画(YouTube)も、実はこれに該当します。

対するフロー型は、鮮度が重要な「速報ニュース」を発信するのに適しています。情報の伝達・拡散のスピードが速いからです。

## SNSの3つの真実

### ① SNSは即効性がない

開設直後のアカウントはほとんど無名。アカウントを育てるには、状況にもよるが半年は想定したいところ。爆発的な拡散は意図して起こすことは難しく、アカウントの育成は必須となる。

### ② 大学アカウントは広報に向かない

本文でも触れたとおり、組織名のアカウントはフォローされにくい。SNSは人と人をつなぐものだから、個人名を前面に出していきたい。

### ③ コミュカの高い人が担当すべき

パソコンに詳しい人よりも、コミュニケーション力の高い人が担当するとよい。更新頻度、写真の選び方、文章のノリ……、すべては「センス」がモノをいうからである。

また、これらのメディアは、次のように捉えることもできます。「大学が発信する一方通行の情報はストック型メディアに」「志願者や在校生とのやり取りを前提とする情報はフロー型メディアに」という考え方です。こう考えると、フロー型メディアでは、志願者からの質問にリアルタイムで答えたり、悩み事の相談に乗ったりするコンテンツを企画しても面白いでしょうね。

## ストック型メディアは担当者が「楽しむ」べし

では、それぞれのメディアはどのような戦略で組み立てていけばいいのでしょうか。

ストック型のポイントは大きく3つ。まず、コンテンツを増やすこと。ブログなどであれば、1日に最低1記事はアッ

プしていききたいところです。コンテンツが充実しているとリピート率が高くなり、結果として認知度も上がります。

2つ目はSEO(検索エンジン最適化)対策。これは検索エンジンの上位に表示されるようにするためのもので、志願者が検索時に入力する可能性の高いキーワードを設定するとよいでしょう。情報量が十分なサイトは、それ自体がSEO対策にもなります。

3つ目は、担当者が「楽しむ」こと。完璧な知識は必要ありません。義務感でサイトを運営しても、読んで楽しいページにはなりませんからね。

一方のフロー型では、Facebook、Twitter、Instagram、LINEなど、それぞれの「文化」に応じた使い分けを心がけましょう。たとえばTwitterは、1回の文字数が140字に制限されているぶん、投

稿数が非常に多いサービスで、情報の賞味期限は1日といわれています。このため、1日に5、6回投稿しても問題ありません。

対照的に、長文での投稿が可能なFacebookは、多くの利用者が熟読する傾向にあり、1日に何度も更新するアカウントは敬遠されます。

画像投稿サイトのInstagramは雰囲気重視型。同じ食料品でも、Twitterでは「豪快に食い散らかした構図」がウケるのに対し、Instagramでは「梱包された状態でおしゃれなキッチンに飾った構図」がウケます。

## 「個人」と「個人」を結ぶのがSNSの役目

このように、それぞれの文化に適應していけば、一つのネタを多角的に見せることができるのですが、残念ながらSNSを活用した大学の経営戦略では、ほとんど成功事例がないように思います。法人アカウントで運営すること自体が、成功を難しくしているのです。

その理由として、SNSが基本的に人間のコミュニケーションを盛り上げるのに対し、法人と個人のコミュニケーションの難易度は高い傾向にあるからです。例えば日本企業では、無線通信サービスのソフトバンクや、ファッション通販のZOZOTOWNのフォロワーが

多いことで知られています。しかしこれは孫正義さん、前澤友作さんといった、強烈なキャラクターのオーナー社長がメッセージを発信するかたちになっているからです。企業ではなく、いわば“経営者個人”にフォロワーがついているわけです。

また、企業には「目立ってなんぼ」という部分があるため、風当たりが強まるのを覚悟で、思い切った情報を発信することもあります。しかし大学には公共性や社会的信用が求められるので、“ウケ狙い”の情報発信は難しいでしょう。「炎上」も引き起こしかねません。SNSを運用する場合は、書き込む前に、複数のスタッフが内容をチェックする体制にしたほうがいいでしょう。

このように考えると、大学にはストック型メディアが効果的です。ストック型は「蓄積」ですので、地道に中身を育てる作業が必要になります。大学の専門分野や魅力を“棚卸し”して、客観的な魅力を発信しましょう。もちろん、フロー型を並行運用するのは構いません。

大学の魅力を棚卸ししたら、あとは「誰に情報を届けるか」を考えるのみ。マーケティング用語に「ペルソナ」というものがあります。年齢・性別・趣味・ライフスタイルなどを細かく設定した架空の顧客のことです。広告情報は不特定多数に届けようとするより、特定の1人に

## Profile



落合正和 (おちあいまさかず)

大手アミューズメント施設などの勤務を経て、2011年office ZERO-STYLE設立。以来マーケティングコンサルタントとして活動する。なかでもソーシャルメディアマーケティングに注目し、日本初となるFacebook解説ブログを立ち上げ、月間300万PVを達成。その後もテレビ、ラジオ、新聞、Webメディアなどでの解説や講演などを中心に活動中。

向けたほうが効果的だという調査結果も出ています。情報がより具体的に、わかりやすくなるからです。さらにペルソナに近い人物(家族や友人)に響く可能性も高まります。

ストック型にしろ、フロー型にしろ、広報アカウントは時間をかけて育てるものです。簡単に成功するコツはありません。広報活動について、じっくり皆さんで話し合ってみてはいかがでしょうか。

※Twitter社はTwitterを「ソーシャルネットワークではなく、社会的な要素を備えたコミュニケーションネットワークである」と規定していますが、本記事ではSNSとして取り上げました。

の多様性を「生活圏」から「個人の嗜好性」に変化させ、価値観も「生きるため」から「付加価値」に変化させました。しかし、よいことばかりではなく、その生活を支える物流・経済は、格差と公害をもたらし、それを地球規模に拡大させ、近代社会の持続可能性に関わる大問題を生み出しています。

現在もまだ変化の過程ですが、未来をよりよく導くためには、ソクラテスの「知徳合一」という言葉にあるように、徳の高い「価値観」を創造し続けることが、教育において非常に重要です。あらためて持続可能性を検討し、自分自身の「価値観」を見直す時代になったともいえます。皆様はどうお考えでしょうか。(常務理事 大沼 聡)

## 編集後記

今号では、地球上で人間社会にだけ存在する「価値観」について特集しました。人間は昔から「価値観」を持ち続けています。20万年前に存在したホモサピエンス(現生人類)の時代から、人間は自然環境で生き抜くための経験を積み重ねてきました。さまざまな自然環境は多様な価値観を生み、近似性、類似性等により集まり、宗教・国等を構成し、現代社会の基盤となったのです。この「価値観」は協力しながら、時には争いながら歴史を重ね、社会は発展してきました。

現代では西洋文明化とテクノロジー等の発達により、人間は自然淘汰からほぼ解放され、昔と比べれば天国のように豊かな生活環境を築きあげました。この豊かさは、人間

教職員の待遇の安定と向上のため、学校法人の経営を支援することにより、広く社会に貢献しています。

# 未来のために、 私学とともに

当財団の退職資金交付事業は、教育基本法の趣旨に則り、私立大学教職員と国公立大学の教職員との待遇の均衡を図り、教職員が安心して教育研究活動に専念できる環境を確保することを目的としています。国は、この事業が広く社会全体に貢献していることから、学校法人が納入する掛金を助成の対象とし、私立大学等に直接補助しています。

#### ●法人情報(平成29年度)

加入法人数	597法人
月平均登録者数	13万7009人
経常収益	822億円
経常費用	812億円
準備資産	1361億円



公益財団法人  
私立大学退職金財団